

国立大学法人富山大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを理念としている。第2期中期目標期間においては、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「富山大学機能強化プランーCHALLENGE2014ー」に基づき、全学共通授業評価アンケートの実施、共通教育センターの体制整備、学生の海外キャリア研修派遣事業等、教育再生・グローバル化等の実践・実現に向けた取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長裁量経費について「中期計画」「年度計画」及び「富山大学機能強化プラン」に基づいた重点配分を行うためのヒアリングを実施し、継続事業分については結果報告も十分に踏まえて採択の決定を行うことなどにより、戦略的な資源配分につなげている。

【評定】 中期計画の達成に向けて**順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「富山大学基金」を設置し募金を開始するとともに、薬学部 120 周年事業として寄附金を募集するなど寄附金収入の増加等に努めており、外部資金比率は法人化以降、最も高い 5.0 %（対前年度比 0.4 ポイント増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 研究室を紹介するテレビ番組「富山大学キャンパスレポート Tom' s TV!」について、動画共有サービスにおいて配信して公開しているほか、学長と富山県知事等との座談会をテレビや新聞を活用して県民に発信するなど、情報発信に積極的に取り組んでいる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**特筆**される。

- 施設の効率的利用を図るため、全学施設を対象として、保有面積 1 m²あたり年間 1,000 円のスペースチャージ（施設利用課金）制を導入しており、評価できる。

【評定】 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

（理由） 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、全学施設を対象としたスペースチャージ制を実施していること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全学共通の授業評価アンケートを実施するとともに、高評価だった授業をファカルティ・ディベロップメント研修等で共有しているほか、共通教育カリキュラムの実施を推進する共通教育センターに教授を採用し体制整備を図っている。
- 地元銀行と連携して「海外キャリア研修派遣事業」を実施し中国に学生を 10 名派遣するとともに、産学共同で中国の日系企業で現場を体験する「企業実務研修」を実施し 1 名派遣している。
- 「富山大学における障害学生支援に関する基本方針」を制定するとともに、「富山大学における障害学生支援の手引書【身体障害学生版】」の作成や、これまでのノウハウを活かした「障害者支援の映像教材」のウェブサイトでの情報発信を行っているほか、発達障害学生に対する就職支援活動により、9 名の被支援者のうち 4 名の就職が決定している。
- 自殺防止対策室の 3 年間の活動実績を「自殺防止対策室活動報告書」としてまとめ、啓発と報告の目的で学内及び全国国公立大学に配布している。
- 新たに「先端ライフサイエンス拠点」を設置し、テニユアトラック制度の普及・定着を推進し、若手研究者の育成、自立的な研究環境の整備促進を図っている。
- 地方鉄道会社と連携協定を締結し、平成 25 年度入学者から、学生証に IC 乗車券機能を付加して公共交通機関の利用向上による地域活性化を図り、また、大学生協で使える電子マネー機能も搭載することとしている。
- 氷見市との連携協定に基づき、住民参加・体験型の「ひみラボ水族館」、中学生を対象に氷見の生物を紹介する「ひみっ子ラボ」、学生による臨海実験を実施するなど、氷見市をフィールドにして地域と連携した教育研究活動に取り組んでいる。
- 文部科学省と共催し、地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議「熟議 2012 in 富山大学『災害が起きたらどうする?』」を開催し、災害への対応や普段の備えについて議論を交わしている。

共同利用・共同研究拠点関係

- 和漢医薬学総合研究所では、平成 24 年度は 23 件の公募型共同研究を採択し、国内外 28 機関 65 名の研究者と共同研究を実施するとともに、共同研究基盤整備のため、伝統医学で使用される薬物の学術情報や、共同利用・共同研究拠点における研究成果を公開する和漢薬データベースの構築と拡充を推進し、研究情報の発信を行っており、大学が有する知的財産を社会還元するための情報発信基盤としてのみならず、研究者コミュニティの情報交換の場としても利用され、年間の閲覧回数は 10 万件を超えている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 平成 24 年度から新たに増えた手術看護とがん化学療法看護の認定看護師が、院内外で講師を務めるなど、看護教育に関わることにより、質の高い看護師の育成に取り組んでおり、新卒看護師を対象とした「がん看護の基礎」研修に 6 施設から 21 名を受け入れている。

(診療面)

- 改正臓器移植法の施行後初めて、6 歳未満の患者への脳死判定を実施し、臓器摘出手術を実施した。手術後には、脳死判定に至る経緯を検証する会議を開催し、課題を整理するとともに院内マニュアルの改訂を行っている。

(運営面)

- 外来化学療法センターのスタッフを 3 名増員し、外来化学療法利用件数は 3,584 件（対前年度比 722 件増）となっているほか、新たに災害・救命センター集中治療室 (ECU) 8 床、母体胎児集中治療室 (MFICU) 3 床を設置したことにより、高度で質の高い医療を提供するとともに、増収につなげている。